

# 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 3

<b>団 体 名</b>	NPO 法人北海道鉄道文化保存会			
<b>事 業 名</b>	北海道の歴史の遺産 旧手宮線を「花と鉄道の散策路」に			
<b>実施期間</b>	平成 27 年 6 月 4 日～平成 27 年 11 月 30 日			
<b>事業の目的及び期待する効果</b>	<p> <b>事業の前提と背景：</b> 手宮線は、1985年の廃線後、訪れる人もなく30年近く放置されていた。4年前から、市が遊歩道の整備を進めているが、沿線家屋が背を線路空間に向けているため、景観的には好ましい状況とはいえず、訪れる人も少ない状況にあった。                      北海道に初めての鉄道が、手宮から札幌まで開通したのは、1880年の11月28日。2015年、開通135年目を迎え、さらに、3年後の2018年には、明治2年、北海道の開発から、150年を迎える。                      このような時に、北海道の開発に大きな貢献を果たした鉄道の功績と、その歴史とその遺産をあらためて見直そうと、当会が中心となり、全道に呼び掛け、開拓史によって、手宮から札幌にむけて初めて列車が開通した11月28日を「北海道の鉄道の日」と制定した。                      あらためて、歴史的な鉄道の出発点となった旧手宮線への関心も高まり、北海道の開発の歴史にとつての大切な史跡として注目されることとなった。  <b>事業の目的：</b> 北海道の鉄道発祥の鉄路として、誇れる、大切な史跡として、市民を始め、国内外から訪れる観光客に親しみを感じ、大切に愛される歴史空間を設(しつらえ)たいと、鉄路に添って、心の籠った美しい花畑を鉄路の散策路に沿わせた「花と鉄道の散策路」を演出し、鉄道を愛する仲間や、住民、市民のボランティアの手で「おもてなし空間」を実施する。  <b>期待する効果：</b> 小樽市の「歴史景観地区」内の鉄道遺産の景観を、北海道の季節の花々を楽しみながら散策できる憩いの散策路とし、全国に知られる小樽の歴史的観光資源「小樽運河と「花と鉄路の手宮線」の小樽の2大散策路」として、北海道の歴史遺産への関心をたかめ、その再評価につなげる。地域はもとより、小樽市全体の活性化に繋げる。                 </p>			
<b>実施額</b>	事業費	390,966 円	助成額	300,000 円
<b>事業内容</b>	<p>                     鉄路と遊歩道に沿った花壇の計画                      「花と鉄道の散策路」/小樽旧手宮線跡＝第Ⅰ-2015                      1)計画構想の作成                      2)第Ⅰゾーンの計画、実施案の作成                      3)町内会説明                      4)ボランティア募集チラシ配布(町内会を通し)                      5)ボランティア説明会                      6)花壇境界丸太の搬入、防腐塗料の塗布、設置                      7)土(腐葉土、黒土、培養土)の搬入                      8)花の苗の購入                      9)花の苗の植え込み                      10)水やり(当番)                      11)秋口の花の追加                      12)花ガラ摘み                      13)花の刈り取り                      14)宿根草の球根植え込(来春用)                      15)来春用の苗作り(種、ポット)室内                 </p>			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

○事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
6月6日	ボランティア募集	15~20人	8人
6月	事業計画説明会(町内会等)	6~7町会	2町会
7月10日/9月25日	花壇枠丸太搬入、防腐剤塗装	} 20人	5~6人 (ボランティア参加… 4~5人)
7月10日	花壇境界枠設置 土搬入①腐葉土(市公園)		
8月5日 ~ 9月17日	花植え込み① 土搬入② 花植え込み② 土搬入③ 花植え込み③ 花刈込 黒土搬入	} 延べ 55人	延べ48人  (ボランティア参加… 38人)

**1. 事業の目的の達成度**

## (1)土

- ①土量(線路用地のため・現地のバラスの上の土の被りが少なく、予想以上の2倍以上の土が必要となり、計画を狂わせた)
- ②市から支給の腐葉土は、あまり熟成が進んでおらず、土に空隙をつくり、根がうまく張れなく、黒土を多量に補給することとなった。

## (2)花

- ①補助金の決定が6月上旬になった為、花の仕入れが初夏から、夏の花々から開始されることとなった。
- ②市民からの苗の寄付もありバラエティに富んだかだんとなった、
- ③夏の花の終りを予感されるころ、秋の花々を植え込み、季節の移ろいを演出できた。
- ④市民から庭で増えた苗や球根の寄贈もあり、来年に向けては、広く呼び掛けたい。
- ⑤花の植え込み、水やりは、住民、市民ボランティアの協力により、和気藹々のうちに勤められ、地域の住人との交流もうまれ、花作りのテクニックや、知識の交換など、来年に向けて期待が持てる1年となった。
- ⑥頂いた球根は、花の終わるころ植え込み、来春雪解けを待って花を咲かせるもの、室内で糠などの中で冬を越し、雪解けを待って植え込むものなど、今年の春にできなかった早春から春に向けての準備や花の勉強、来年の植栽のプログラム作りに冬の間も、いろいろ作業や勉強におわれそうである。

## (3) 全体

今年度、整備を予定していた花壇は、全て整備できた。

**2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度**

ボランティアの募集や呼び掛けで集まった市民の中には、近年退職後小樽に移住してきた人々なども加わり、和気藹々のグループが生まれ、来年はより多くの参加もきたいできそうである。

花作りの作業中、通り掛かりの花壇のできたことを喜び、感謝の言葉や、花の名前を尋ねる人など、ここを歩くことを楽しみにしている人が増え、会話やお礼の言葉が聞かれるのも嬉しいことであった。

花を眺めながら一休みできる椅子なども欲しい

**3. 今後の事業について**

全区間を4期に分け(平成27年(2015年)～(平成30年(2018年)北海道150年に向けて)中央通りから小樽市総合博物館までつなぐ、約1,2kmを「花と鉄道の散策路」を完成毎年花の植栽を周辺住民、市民、ボランティア会員と共に継続する計画。

**4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等**